

助言者講評

小田原城北工業高等学校校長 立川 健二

西湘高校 PTA のみなさん、今回斬新なスタイルで、楽しくわかりやすくご説明いただきありがとうございます。はじめに各委員会の活動紹介がありましたが、PTA の委員会活動を通して、生徒を支援していくということが大きな柱ではございますが、活動を通して保護者の方がお互いコミュニケーションをとったり、情報共有したり、お子さんの話をしながら交流を深めたりということも大切なことだと感じました。

また、今回の発表の中心になると思いますが、PTA の意識調査アンケートをマチコミやグーグルフォームを利用して行ったとのことですが、アフターコロナの状況において、このコロナ禍で学んださまざまなアイテムを使って、PTA 活動に生かすということもこのコロナ禍で経験をした中でプラスになったことだと思います。

そのアンケートの中で、私が特に興味を持ったのは「PTA の活動に関して」興味がある、興味がない、どちらとも言えないという割合です。この質問の中で「どちらとも言えない」という方が7割を占めていたと会長が話されましたが、今後のPTA 活動を考えていくうえで、この7割の方をどう巻き込んでいくかということが、改革をしていくうえで大きなポイントになると私も思います。アンケートの活動イメージの中に「大変そう」「面倒くさい」というご意見をお持ちの方もいますが、この7割の方にどうアプローチしていくかが、大切なことだと思います。

そういったところに目をつけて、西湘高校さんではボランティアによる活動の試行をはじめられたということはこの7割の方を意識した改革ではなかったかと思います。

なかなかフルで参加しにくい保護者の方にとっては、PTA 活動に参加しやすいシステムではないかと思います。アンケートの結果にもあります通り、「内容・日時がわかっているならば参加したい」という方が4割いるということが、この試行が今後のPTA 活動の活性化につながるのではないかと思います。

今回の発表の中で、参集型という形態もPTA 活動において非常に有効ではありますが、ズームなどのオンラインを活用してPTA 活動の効率化を図り、保護者の負担軽減を図りたいというご発言がありました。県西地区各校におきましても今後このような方法を取り入れながら有意義な活動をしていただけたらと思います。

最後に、今学校ではコロナウイルスの感染やインフルエンザの感染が増えてきています。そういった蔓延防止にご配慮いただきながら、PTA 活動を通して、保護者同士のコミュニケーションや情報交換の場として、また生徒たちの応援団としてご支援・ご協力をいただきますことをお願いして私からの講評とさせていただきます。西湘高校PTA のみなさん、本日は本当に発表ありがとうございました。

